

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391500024		
法人名	医療法人社団孔和会		
事業所名	グループホームあかね苑		
所在地	熊本県天草市久玉町5716-9		
自己評価作成日	平成27年2月24日	評価結果市町村受理日	平成27年4月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41-5
訪問調査日	平成27年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に母体である病院と併設しており、看護師の配置もあることから病院との連携も強固で、日常の健康管理のサポートや緊急時にも迅速に対応でき、職員・家族共に安心感と心強さを持っていただいていると思います。また、2階には小規模多機能が開設し夜間の夜勤帯も協力体制が強化されています。認知症の専門研修を修了した職員も多く配置されており、認知症に特化した1個の家としてあかね苑全体で地域の拠点として包括的なケアの実践につなげていければと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

\*母体法人は地域包括ケアの推進を基本方針としている。法人全体で定期的に研修及び会議を開催し、法人の方針を折にふれて周知している。職員は地域行事の企画・準備の段階から打ち上げまで参加し、地域住民の一員として日頃から地域住民と交流している。また、地域で開催する認知症介護教室では、参加者が分かり易く学べるように、職員自らが楽しみつつアイデアを出し合い工夫し、認知症の理解を地域に促している。認知症になっても安心して暮らせる地域社会を築くという信念のもと、事業所が信頼の置ける福祉の拠点であることを目指し日々努力を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を深く理解するための勉強会を行い、統一したケアが出来るように取り組んだ。毎週月曜日の朝礼時には意識付けの意味でも呼称している。	理念に対する理解を深めて実践に繋げる勉強会を開催し、理念の浸透を図っている。利用者一人ひとりの状況を理念に照らし合わせ、全職員で意見を出し合い、具体的なサービスに繋げ「今を笑顔で過ごせるように」というテーマのもと、サービスの質向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慣れ親しんだ地域の中で安心して暮らして頂けるよう、地域行事(ランドゴルフ・どんどや・祭り)への参加や広報誌あかね丸の配布を利用者の方と一緒に出かけ馴染みの機会を設けている。	広報誌「あかね丸」を利用者と共にふれあいセンター等に配布。また、自治会を通じて地域へ回覧し、施設の情報発信に役立っている。久玉の祭りやハイヤ祭り等に出かけたり、久玉町民文化祭では利用者と職員がコーラスで出演する等、地域住民の一員として参加しており、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域公民館で「介護教室」を開催し、認知症の寸劇等実施し分かりやすく理解して頂ける内容で地域交流を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	苑での取り組み状況や利用者様の日々の報告をスライドにして報告し確認して頂いている。又、実践リーダー研修の課題として「理念を振り返る」事で実施した内容の報告も実施した。	運営推進会議を、地域住民の代表・家族代表・行政の参加のもと定期的開催。利用者の状況や活動及び職員研修の報告をすることで施設への理解を促している。「久玉夏祭り」に関する情報提供を地域から受けて、企画準備の段階から打ち上げまで職員が参加し信頼を得ている。問題を抱えている地域住民に「あかね苑」に相談するよう勧めたケースもあり、委員と苑の協力関係が伺えた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への案内を行い、意見を聞いたりサービスの向上に役立っている。	市の担当職員とは普段からメールや電話、直接出向いての相談など、情報交換等を行っている。また、市の委託で認知症介護教室を開催し、協力し合う関係もできている。地域ケア会議で、在宅で困っている方に関する情報提供を受けた際は、包括支援センター職員と協議して問題の解決に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	孔和会で行っている介護事業研修会に参加したり、マニュアルに沿って対応している。玄関の鍵は自由に出入りが出来るようにしており、玄関の出入りが分かる様に「いらっしやいませ」のセンサーを設置している。	身体拘束防止について継続した研修を実施し、拘束をしないケアに取り組んでいる。頻繁に玄関に向かう利用者には、全職員が利用者の動向を把握した上で制止する事も否定することもなく見守り、視線や語調等にも配慮し連携の取れた対応を取っており、拘束に関する意識が浸透していることが伺えた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	孔和会で行っている介護事業研修会に参加したり、マニュアルに沿って対応している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市の研修には、積極的に参加を促し、学んでもらうようにしている。また法人内でも介護事業研修会を通して、多くの職員が学べるよう配慮している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には書類を用い丁寧に説明を行い、理解を得ている。改定時にも同様説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等に参加して頂きコミュニケーションを図り意見を取り入れている。家族会を運営推進会議と合わせ、できるだけ多くの家族に参加、意見を求めている。	家族が参加する餅つきや誕生会の他、年1回の家族会の懇親会で意見要望をくみ取る工夫がみられた。また、面会に訪れた家族に積極的に声をかけ、利用者の状況をこまめに伝えている。遠方にいる家族には利用者の日常生活の写真や広報誌を添えた手紙で報告し、家族の安心につなげている。家族の意見要望を真摯に受け止め丁寧に対応することで、信頼関係を築いている。	家族会の開催時に意見要望が言い易いように、家族同士だけの話し合いの時間を作るのも良いと思われる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回の管理者会議、部署会議、5事業所会議等にて意見を出し合えるようにしている。	職員間で日常的に意見を交換し、解決できない事例は管理者に相談している。管理者は毎月開催される管理者会議・部署会議・5事業所会議に参加して、職員から出された意見を会議で検討する。尚、内容によって理事長に相談する仕組みとなっている。管理者は、職員の休日の取り方に関して、公平・公正を意識して対応し、職員の意欲向上を図る等、働きやすい職場環境作りに努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価制度を設け面談を行い、評価のすり合わせや目標の確認を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標面接で確認した内容にて必要な研修等には個別に声掛けし、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や天草市GH連合協議会に加入し、研修や懇親会に参加したり、訪問したり交流の機会をつくっている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	隣接の認知症デイサービスや多機能ホームの方々との交流を深め、馴染みの関係作りに努め、徐々に慣れて頂く方法をとっている。また、入居前には必ずスタッフが自宅や病院に出向き、ご利用者様との面会を重ねている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問により、一番の悩み、望みなど聞く機会を作り、苑での生活を話したり、見学をすすめたりして安心してご家族を入居させるための信頼関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	じっくりと話を聞き、今何が必要かを見極め他の居宅サービスの紹介や手配のお手伝いをしている。手に余る問題に関しては孔和会に相談し適切な支援が図れるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の「物語」への情報はスタッフが理解を深め会話への引き出しとして身につけ、残存機能を十分に生かしてもらえるようにアクションをかけ関係を維持している。スタッフの服がほころびていると自らつくろって下される方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	皮膚科・歯医者受診等、ご家族に連絡し協力して頂き、外出への働きかけや支援を行い、ご家族と共にご本人を支えていける関係作りを実施している。以前家族との思い出の場所へ外出されたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事へ参加し、関係を保つようしている。美容院は昔から利用されていた場所で行うなど、ご本人の意向を大切にしている。	「老人会」や「どんどや」等、地域行事に参加する事で友人・知人から声をかけられることもあり、そこで旧知の友と親交を温めることもある。近所の方や同級生の訪問もあり、「いつでもどうぞ」と声をかけている。行きつけの美容室を利用したり、家族と良く出かけていた思い出の場所へ出掛ける等、希望を叶え、馴染みの人や場所との継続した支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が孤立しないように全体に目を向け難聴の方へは筆談で会話がスムーズに行えるよう、スタッフが間に入り話題の提供やレクリエーションを行っている。「女子会」では一つのテーブルに集まり話が盛り上がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後も今までの関係が続けられるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や訴えがあれば傾聴し、それを書き留め、カンファレンス等で話し合い、把握することに努めている。困難な場合は、本人の立場になって考え、本人の意向に沿えるよう努めている。	利用者の様子や言葉からの気付きと家族からの情報等を、経過記録と申し送りノートに記載し、利用者の思いや意向の把握に努めている。ご主人の命日に家族と一緒に墓参りに出かけたたり、移動図書館を利用して読書を楽しむ等、利用者の思いに沿う支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者記録、アセスメント、ケアプランに目を通し、これまでの生活歴、暮らし方、以前のサービス利用等を把握する。また、本人からの話を傾聴し理解に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の経過記録や、申し送りに目を通し、一人一人の1日の過ごし方、心身状態などの把握に努めている。特に気づいたことなどスタッフ間で言い合い共通理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開き、ご家族への説明と共に、スタッフ、かかりつけ医師の意見を聞きながら、本人にとって何が一番良いか、幸せかを検討し、作成する。	利用者の個別経過記録や、日常の観察から情報を収集して、モニタリングを月1回、プラン作成は6カ月に1回実施している。サービス担当者会議には、かかりつけ医・家族も参加しており、出席者の意見が反映されたプランとなっている。今を笑顔で過ごせる事を大切にプラン作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は様子、気づきを記入し、変化がわかるようにしている。それをもとにして計画作成に役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	台風などの災害時に早めに避難誘導したり、その家族も困っている時、施設内に避難できるよう対応した。他のニーズにも対応できるよう、対策を話し合う場を設けたり、サービスを家族にも知って頂けるよう、運営推進会議やあかね丸の広報誌にのせ伝えるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園児やボランティアの方の慰問への参加を行い、交流を行っている。又、地域行事へも積極的に出向き、デイサービスや小規模の利用者、入居者様と歌をうたう出し物をしたりと、楽しめるように工夫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診、病状により家族へのムンテラ施行。本人の訴えに傾聴、異変に気付いた時には、家族に相談し、専門科受診を行って頂いている。	本人・家族の了解のもと母体医院をかかりつけ医としており、月1回の往診が実施されている。往診時には家族が直接医師の説明を受け、利用者の健康を把握し関わりを持つことの大切さを伝えて、協力を促している。看護師を配置していることや、管理者がすぐ駆けつけることに加え、母体医院が同一敷地内にあり、緊急時も迅速な対応が可能で、利用者・家族にとって心強い体制となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化がある方は、施設内看護師へ相談し必要があれば外来看護師へ報告を行い、臨時診察を施行。又、情報提供を行い、病棟夜勤看護師へも申し送りをしてもらう等、連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される際は、介護サマリーを作成し、看護師への情報提供。面会時や入院予定日付近になったら、病状確認。退院時には看護サマリーを受け取り情報の共有。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診察時出来るだけご家族に付き添ってもらい主治医から説明施行。家族の現在の意向の確認を管理者、職員共に行っている。終末期、今までの経過をまとめ、カンファレンス時に勉強、再確認を行い、スタッフの知識が統一できるようにしている。	「看取り指針」について契約時に家族に説明し同意を得ている。看取りの経験があり、病状の変化に伴って随時、家族の意向を確認し話し合いを重ねながら支援している。体験から学ぶ具体的事例を扱った、看取りの研修を次回に予定しており、更なる知識・技術の拡充が期待できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回介護事業研修会で救急、緊急時の対応を学ぶも、施設では、訓練等はなかなか実施できていない。これから強化していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回小規模、デイサービスとの合同で消防署の協力を得て、入居者様も参加して避難訓練を実施している。災害時は、病院と協力体制が整備されている。	2階にある小規模多機能ホームと合同で、年2回の昼・夜間を想定した消火・通報・避難の防災総合訓練を、利用者参加のもと実施。備蓄品を玄関に常備、定期的に在庫確認を行い、非常時に備えている。運営推進会議において、地元・吉田地区の自主避難訓練の実施を施設側から提案し、地域住民も参加する訓練が予定されるなど、地域の連携を図る事が期待される。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには注意を払いながらも親しみを込めた敬語で話すようにしている。個人情報を含む記録は施錠し管理し、外部への持ち出しは行っていない。	法人全体において、言葉使いは敬語、名前は姓を呼ぶ事を基本としており、温かみのある美しい方言、こち良い方言を使うようにしている。排せつ介助時にも無神経に大きい声を出さない等、日頃のケアの中で留意しながら対応している。職員の優しい言葉使いや表情から、利用者を尊重し接している事が感じられた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の表情や行動を確認しながら、その方が何を思っているのかを考え声かけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個別の希望に沿うようにしている。一人一人のペースを大事にし、行事やレク等は自由意志に任せ、見守り重視の支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪や髭剃りを実施。衣類も一人一人の好みの物をご家族の方に持ってきてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事形態にし、好きな物を好きな時に食べて頂けるよう、心がけている。又、食後には食器拭きを積極的に行われている。	グループホームの調理専門の職員が、旬の食材や頂き物を使って、季節感や彩りにも配慮した家庭的な美味しい料理を調理している。恵方巻等の行事食や大根葉の菜っ葉飯等の懐かしい料理、手作りのおやつ等が提供される。時には趣きを変えて、前庭で食事する等多様な食事を楽しむ工夫が見られた。訪問当日に旬のめかぶ料理の手伝いをして利用者の姿は活き活きとしていた。調理が苦手な人も同じテーブルでめかぶを刻む音や磯の香りを楽しんでいた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取はその方の状態に合わせて、調整。水分は食事以外で、十時、十五時にとって頂けるよう声かけしている。必要時は法人内の管理栄養士や、言語聴覚士に相談しアドバイスももらったりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の口腔内の状態に合わせて、歯ブラシ、スポンジを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	要介助の利用者は、パット交換時間水分量、体動、発語等で判断し、二人介助にてトイレもしくは、居室にて排泄、自力歩行できる利用者様はトイレ誘導、ふらつき防止のため見守りにて排泄介助。	昼間は排せつパターンや動作から排せつの意図を把握し、トイレ誘導を行っている。夜間は、失敗の不安を軽減し眠りを妨げないために、ポータブルトイレやパットを使用する等、個々に合った支援を行っている。また、排せつが失敗しても利用者が羞恥心を抱くことのないよう、トイレに常備したパッドでさりげなく交換する等の配慮も見られた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	消化の良い食事摂取、誤嚥防止も考え、飲み、トロミ等工夫。訴えられないこともあるのでトイレ誘導等で促す。どうしても排泄できない方は、適切な処方に基つき内服にて排泄。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は好きだが脱衣、体を洗うのがおっくうと思われる方々には、その方々の性格、習慣を理解し十分な声かけなどをし、ストレスがかからない入浴の支援に取り組んでいる。	入浴は週3回～4回を基本としているが毎日の入浴も可能。リフト浴・二人介助・個浴等、利用者の身体状況に応じた支援となっている。認知症のために入浴方法等に苦手意識を感じている利用者の不安を軽減できるよう配慮し、入浴が心地よい時間となるよう心がけている。	次年度は「温泉ツアー」も検討しており、更なる入浴を楽しむ支援の充実を期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様に依りて休憩時間を午前・午後に分けてとる様にしたり、昼夜逆転がみられるときは、日中の休憩を減らし日光浴等日中の活性を上げ質の良い睡眠ができるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月ごとに処方された調剤書を利用者様ごとに管理し、誤薬がないように一日、朝・昼・夕記入して内服して頂き、月々の定期診察で新たに薬が必要な場合は、その都度対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の生活習慣をできるだけ維持できるように食器拭きや洗濯たたみなど行って頂き、季節、月ごとに行事行い日常生活に近い生活に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が近くにおられる場合にはよく話をされる場所、行きたい所に一緒に出かけて頂いて写真を撮って頂いたりしている。なかなか家族の方が訪苑出来ない利用者様は、季節ごとの花を見に行ったり、お祭り、運動会などを見学したりして日常と違う変化に取り組んでいる。	利用者は、気候の良い時期の周辺散歩を楽しみにしている。季節行事の初詣やハイヤ祭り、すいせん祭り等積極的に出かけており、桜の花見には手作り弁当を持参する等、更に楽しみが増す工夫が採用されている。また、保育園の運動会見学では園児のかわいい演技に元気をもらう等、年間を通して気分転換を図る計画が多様に準備されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症ケアである事を踏まえて家族と連携を取り、希望に応じて所持したり、使えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時電話をしたり手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室に職員手作りの表札をつけ分かりやすくしたり、湿度調節や季節感がでるような掲示を心がけている。	リビングには季節の花が活けてある他、利用者の笑顔の写真が展示され和やかな雰囲気となっている。畳のコーナーには、水槽に金魚が飼われ、アロマオイルがたかれており、癒しの空間となっていた。リビングコーナーには、おやつ時間にコーヒーやアップルティー等数種類の飲み物から選ぶ事が出来るように準備され、季節にあわせてゆず茶等も出され利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間作りができるように席の工夫をしたり横になれるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し好みの物や家族の写真や誕生日プレゼントなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	部屋の障子が落ち着いた雰囲気を演出し、利用者はいつでも開けて外の景色を眺めることができる。花好きな方には桜の花びらを散らした障子が、猫好きな方には猫のぬいぐるみがベッドに置いてある等、その人らしい落ち着いた部屋作りとなっていた。畳の部屋では、面会に訪れた家族がベッドの横でゆっくり座って過ごす事が出来る。部屋の入り口には担当職員が手作りの表札が有りその人らしさを表していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を生かし機能が衰えないように生活機能訓練を取り入れ、自立した生活を目指している。トイレなどに目印をつけたり整理整頓に心がけ安全に過ごせるよう配慮している。		